

事業の多角化（鉄道以外の収益確保）と地域活性化 （JR九州ファーム株式会社）



<法人の概要>

所在地：佐賀県鳥栖市

設立：平成 26 年 7 月

売上高：約 6 億円（農産物売上げ以外の関連事業含み。）

従業員数：159 名（うち正社員 33 名）

農業開始時期：平成 22 年 4 月（「(株)JR九州ファーム大分」として発足）

栽培面積、営農作物：計 8 農場 21.0ha

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| ①大分農場（大分県大分市）
ニラ：2.9ha | ②臼杵農場（大分県臼杵市）
甘藷：5.1ha |
| ③玉名農場（熊本県玉名市）
ミニトマト：2.3ha | ④新富農場（宮崎県児湯郡新富町）
ピーマン：1.7ha |
| ⑤宇土農場（熊本県宇土市）
柑橘類：3.1ha | ⑥糸島農場（福岡県糸島市）
大根、人参、キャベツ等：0.6ha |
| ⑦松浦農場（長崎県松浦市）
アスパラ、ブロッコリー：5.3ha | ⑧内野宿養鶏場（福岡県飯塚市）
鶏舎 6 棟（約 9,600 羽） |

この他、菓子店舗「うちのたまご」を福岡県筑紫野市で 1 店舗（博多駅に販売所あり）、直売店「八百屋の九ちゃん」を同じく福岡市内で 3 店舗展開中。



大分農場（ニラ）



玉名農場（ミニトマト）



内野宿養鶏場

<農業参入に至った経緯・動機>

九州旅客鉄道株式会社（JR九州）グループは、①「誠実」、②「成長と進化」、③「地域を元気に、九州を元気に」という社内理念のもと、原点である鉄道業務の他、建設や観光事業など様々な事業を九州各地で展開している企業である。

同社グループの一つである、大分県下のグループ会社が事業拡大を模索していた中、九州で一番身近でありながら今まで取り組んでいなかった「農業」にチャレンジすることで、雇用の創出等による地域の活性化にも繋がるのではとの考えから、取組が実践された。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

参入に当たっては、①地元（集落、J A、行政）の理解が得られること、②一定程度の栽培面積が確保できる土地があること、③担当する社員が農業の素人であるため栽培に関して指導が受けられる体制が地域に存在していること、④安定する栽培品目が地域のブランドとして確立されている（＝栽培技術や販路が確立）という視点で参入先の選定を行っている。平成 22 年に大分県大分市で大分農場を立ち上げ、規模拡大を図っていく中で、耕作放棄地におけるニラの栽培にも取り組まれている。

その後、J R九州の子会社の一部門や新規法人による農業参入を行ってきたが、平成 26 年 7 月に農業経営ノウハウを集約し共有化を図る観点から、事業を統合し、新たに J R九州ファーム(株)を設立。現在では、九州 5 県で 8 農場（糸島市、飯塚市、松浦市、宇土市、玉名市、大分市、臼杵市、新富町）を運営している。

利用する農地は、売買を志向する農地所有者が極めて少なく、かつ、同社も農業の収益性に鑑みれば所有するメリットがほとんどないと考えていることもあり、全て賃貸借で確保されている。

また、農地中間管理事業を利用することで、①一定の区域でまとまりのある農地の賃借が可能であること、②多数の土地所有者との契約等事務手続が不要であること、③土地所有者の相続が発生した場合のリスク回避ができるといったメリットをいち早く理解し、大分農場、松浦農場においては農地中間管理機構を活用して農地が確保されている。

＜営農開始から現在、また今後の経営の展開方向＞

生産した農産物については、J Aによる系統出荷の他、J R九州グループ内のレストランや菓子店（うちのたまごEGG&SWEETS）、直販店（八百屋の九ちゃん）やインターネットで販売する他、柑橘類を生産する農場の沿線走る観光列車内で販売されるカクテルに使うジュースを提供するなど、多彩な販路を構築している。

今後の経営展開においては、既存農場の経営の安定化を図ることを第一としつつ九州の農業の活性化に貢献し、九州を元気にしたいという思いに基づき、当社が地域のために何ができるかを模索しながら自社の経営発展に取り組んでいくこととされている。また、販売面では海外輸出を視野に入れつつ、更なる安心・安全な農産物を全国の消費者へ届けるため、認証取得した GLOBAL G. A. P. の取組についても現在の 3 農場から適用拡大を図っていきたいと考えている。



八百屋の九ちゃん（直売店）



うちのたまごEGG&SWEETS（菓子店）